

『東京純心大学紀要 看護学部』投稿細則

(目的)

第1条 この細則は、東京純心大学紀要編集要領（以下、「紀要編集要領」と記す）に基づき、『東京純心大学紀要 看護学部』（以下「紀要」と記す）への投稿について、必要な事項を定めることを目的とする。

(紀要の刊行)

第2条 紀要は、毎年1回、原則として3月に刊行するものとする。ただし、東京純心大学（以下、本学と記す）図書館・学術運営委員会（以下、委員会と記す）が承認した場合には、臨時に刊行することができる。

(投稿資格)

第3条 紀要の投稿資格は次のとおりとする。

- 1) 筆頭者は本学の専任、特任または非常勤の教員とする。
- 2) その他、委員会が承認した者とする。

(紀要内容および投稿区分と原稿の種類)

第4条 紀要に掲載する内容は、未公刊の研究論文等とする。

1) 投稿区分については、原稿内容に鑑み、次の種類に区分する。

区分	内容	制限頁数（図表を含む）
原著論文	独創的な着眼点、萌芽的知見等を有し、看護学の発展に寄与できる研究と認められたものをいう。	18,000 字以内
研究レポート	論文には至らないが、研究結果の意義が大きく、学術および教育に有用と認められたものをいう。文献レビューはこれに含まれる。	18,000 字以内
資料	資料的価値が高く、看護に関する特定の課題について、多面的に内外の知見を集め、あるいは文献等にて総合的に学問的状況を解説し、考察したものをいう。	14,000 字以内
その他	看護学あるいは看護に関する研究等で委員会が適当と判断したものをいう。	10,000 字以内

※1頁は40字×40行

(倫理的配慮)

第5条 人及び動物が対象である研究は、ヘルシンキ宣言の科学的及び倫理的規範に準ずる。倫理的配慮が、本文中に明記（倫理審査委員会名、承認番号など）されていなければならない。利益相反（COI）の有無を本文末尾（謝辞または文献の前）に明記する。

(投稿原稿)

第6条 投稿原稿は、未公刊のものとし、和文または英文とする。原則として毎回完結した原稿であることとする。ただし、委員会の議を経て、委員長が認める場合は、その限りでない。

1. 投稿の際の書式等について

- 1) 原稿はパソコンの文書作成ソフトを使用し、A4版、横書きとする。書式は上下・左右余白とも

に 30 mm とし、1 頁 40 字×40 行とする。本文に頁番号を入れる。

- 2) 原稿は日本語もしくは英語を用いる。
- 3) 英文原稿は、投稿者の責任において専門家の校正を受けたものが望ましい。
- 4) 和文原稿において英語論文からの引用や要約を用いる場合、和訳の校正について規定しない。ただし、原文の意図が正しく伝わるように配慮すること（英語原文・単語を直後にカッコして記載するなど）。
- 5) フォントは日本語の場合は「MS 明朝体」、英語の場合は「Times New Roman」を用い、文字の大きさは 11-pt とする。
- 6) 和文原稿は新かなづかいを用い、文体は「である調」を基本とする。句読点は、和文では「、」「。」、英文では「,」「.」で統一する。
- 7) 漢字の使用については、原則的に「常用漢字表」に則るが、専門用語に類するものについてはその限りではない。接続詞や副詞の多くと名詞や動詞などの一部には「ひらがな書き」が定着していることに配慮する。
- 8) 外来語はカタカナで、外国人名などの日本語訳が定着していない学術用語などは原則として原語で記載する。
- 9) 本文や図表中（文献は除く）で用いられる数字および欧文については、原則として半角文字を使用する。ただし、「二者択一」や「一朝一夕」のような数量を表す意味で用いられているのではないものは漢字を用いる。また、1 桁の数字および 1 文字のみの欧文（例：A 施設。B 氏、方法 X、など）の場合は全角文字とする。さらに、量記号（サンプル数の n や確率の p などの数値すなわち量を表す記号）に対しては、欧文書体のイタリック体（斜体）を使用する。
- 10) 整数部分が 0 で理論的に 1 を超えることのない数値は、たとえば、相関係数 r や Cronbach's α では「.68」のように小数点以下だけを表現し、縦に揃える場合は小数点の位置で揃える。

2. 見出しについて

- 1) 論文の構成をわかりやすく提示するために見出しを階層化する。見出しの階層は第 1 階層から第 4 階層までとする。
- 2) 第 1 階層は論文タイトルで、見出しに数字やアルファベットを付けない。
- 3) 本文の見出しは、2 階層から第 4 階層までの 3 つの階層から構成する。見出しに付ける数字・記号、およびピリオドは全角を使用する。
- 4) 「はじめに」や「序論」「序説」、または「緒言」および「おわりに」や「結語」、「謝辞」を使用する場合は第 2 階層ではあるが、本文中では見出し数字・記号は使用せず、単に中央揃えとする。
- 5) 本文中に使用する番号は、I、1、1)、(1)、①の順で記載する。
- 6) 4 階層以上になる場合はアルファベットの階層を使用することができる。
- 7) ある階層に下位階層をつくる場合、下位階層の項目は必ず 2 つ以上の項目をつくる。項目が 1 つしかない場合には、下位階層の項目とはしない。

（番号・図表）

第 7 条 図表の作成は次のとおりとする。

- 1) 図（写真も含む）および表は、原稿本文とは別に 1 枚 1 点とし、まとめて巻末に添える。図表を原稿に挿入する箇所は、本文原稿の右側余白に図表番号を記入する。
- 2) 図の場合には、最下段左端に、出現順に「図 1」のように通し番号を振り、そのあとに全角スペース分空けてからタイトル名を示す。表の場合には、最上段中央に、出現順に「表 1」のように通し番号を振り、そのあとに全角スペース分空けてからタイトル名を示す。
- 3) 表の罫線は必要な横罫線だけにとどめ、縦罫線は使用しない。縦罫線のかわりに十分な空白を

置く。

「例」

表1 新人教員と中堅教員の課題達成得点

	新人教員		中堅教員		t値
	M	SD	M	SD	
授業展開	5.14	3.67	6.5	4.20	2.06*
授業研究	2.98	1.05	4.25	0.94	5.42**
学生指導	5.30	3.54	5.77	3.95	2.08*

* $p < .05$, ** $p < .01$

(引用文献等)

第8条 文献等の記載方法および引用方法については別紙1「参考文献の記載」を参照する。

(注)

第9条 注の記載については次のとおりとする。

- 1) 「注」とは、本文中のある事項を以下のような場合にもとづいて指示することである。
 - ①具体的に説明・補足する場合、
 - ②参考事項を記述する必要がある場合
- 2) 「注」は、原則として脚注とする。
- 3) 本文中の注番号は通し番号とし、参照箇所や引用の直後につける。

(要旨)

第10条 要旨の記載については次のとおりとする。

- 1) 論文として投稿する場合には、400字程度の和文要旨ならびに250語程度の英文要旨を所定の欄に記載する。
- 2) 和文要旨は、第2階層見出しを要旨とし、文中に〔目的〕、〔方法〕、〔結果〕、〔考察〕の見出しをつけて作成する。
- 3) 英文要旨は、第2階層見出しを Abstract とし、文中に〔Aims〕、〔Methods〕、〔Results〕、〔Conclusions〕の見出しをつけて作成する。英文要旨は、投稿者の責任において専門家の校正を受けたものが望ましい。
- 4) さらに和文、英語それぞれの要旨にキーワード3~5語を記載する。

(原稿の提出)

第11条 原稿の提出については次のとおりとする。

- 1) 原稿には、所定の「紀要投稿論文表紙」及び「投稿論文チェックリスト」を添える。
- 2) 原稿は3部のうち2部は複写にし、氏名と所属等、投稿者を特定できるような事項を削除したものにする。
- 3) 提出方法は指定された日時までに図書・研究支援課に直接持参するか、または郵送する。電子ファイルデータの提出は必要ない。
- 4) 投稿論文の採用決定後は、本文、図、表をPDFにして保存した電子ファイルとそのプリントアウトしたもの(図表の挿入位置を朱書き)を図書・研究支援課に提出する。
- 5) 提出された原稿と電子ファイルは返却しない。

(査読制度と投稿原稿の採否)

第12条 投稿原稿の採否は、複数の査読者を経て、委員会が決定をする。

- 1) 不採用となった場合には、査読者の意見を付して訂正を求め、再度査読を行った上で採否を決定する。
- 2) 査読結果は、委員会より投稿者に通知する。
- 3) 採用に際し、論文の修正変更を求めることがある。
- 4) 条件付き採択の場合は、査読者のコメントに沿って修正・加筆し、文中で明示するとともに、正誤表を添付して指定された期日までに再提出する。

(不服申し立て)

第13条 投稿原稿の採否に関する委員会の決定に不服がある投稿者は、委員会に不服申し立てをすることができる。

- 1) 不服申し立てに関しては、委員会は速やかに審議し投稿者に回答することとする。

(校正)

第14条 投稿者の責任においてを行い、再校以降は委員会に一任する。

- 1) 初稿校正は、原則として編集に関わる修正(誤字脱字、句読点、図表の配置、軽微な表現の訂正など)のみを対象とし、大幅な修正・加筆は認めない。

(費用)

第15条 紀要印刷に要する費用は、委員会予算から支出する。特別に費用を要するものは投稿者負担とする。

(著作権)

第16条 投稿された原稿の著作権は著者に帰属する。紀要原稿の電子化等に伴う手続きは、紀要編集要領に従う。

(その他)

第17条 科研費等の助成により得た研究成果を発表する場合は、当該助成事業の定めに従い、助成を受けた旨を必ず表示すること。

- 1) 写真、図表等を掲載する際にそれらの著作権が執筆者自身にない場合あるいは他誌等からの転載の場合は、執筆者が転載許可を得ることとする。また、写真の使用に際しては、肖像権等に十分配慮し、掲載許可を得ることとする。

(雑則)

第18条 この細則に定めるもののほか、投稿について必要な事項は、委員会委員長が定める。

(改廃)

第19条 この細則の改廃は、委員会においてこれを行う。

附 則

令和2年7月15日制定

令和3年7月14日改定

令和4年7月27日改定

(別紙)

参考文献の記載

1. 文献の配列方法

- 1) 文献は論文の最後にまとめて記載し、見出しは「文献」とする。
- 2) 「文献」に記載された文献は本文で必ず引用しなければならない。また、本文で引用された文献は必ず「文献」のなかに記載されている必要がある。
- 3) 文献は、日本語文献と外国語文献を分けずに、著者（共著の場合には第一著者）の姓によるアルファベット順に並べる。
- 4) 同一著者が単独で発表している文献と、第一著者として発表している共著文献がある場合には、単独発表のものを先にし、次に共著のものを並べる。
- 5) 同一の著者あるいは同一配列の共著者の文献が複数ある場合には、刊行年次によって早いものから順に並べる。
- 6) 同一著者で刊行年次も同じ文献が複数ある場合には、発行年にアルファベットを付し、これらの文献を区別する。なお、本文中の記載においても、同様の扱いとする。
- 7) 文献は左寄せで配置し、均等割り付けは使用しない。2行目以降の字下げは必要ない。

2. 文献の種類による記載方法

- 1) 文献の記載方法は、アメリカ心理学会（APA）のスタイルに準拠する。
- 2) 存在しないあるいは不明の項目は記載不要だが、外国語文献では出版年が不明確な場合は、(n.d)と記載する。著者が示されていない場合は、文献の題名から書き始める。
- 3) 引用が単数ページの場合は「p.xx」、複数ページにまたがる場合は「pp.xxx -xxx」とする。
- 4) 外国語文献では、書籍の場合、書名をイタリック体にする。論文・記事の場合、論文名はイタリック体にせず、雑誌・新聞名をイタリック体で表記する。
- 5) 英文原稿に日本語の参考文献を入れる際は、英語表記とする。タイトルの英語表記が不明な場合は、著者による英訳を使用する。その場合、原文日本語タイトルをローマ字表記し、直後にカッコを入れ英訳タイトルを表記する。

【雑誌の場合】

著者名全員（西暦発行年）.論文名.雑誌名,巻(号),pp.開始ページ-終了ページ.

[例]

山本太郎,鈴木花子,田中二郎（2010）.日本の看護教育の歴史.日本看護学教育学会誌,2(1),pp.32-38.

Yamamoto,T.,Suzuki,H.,&Tanaka,J.(2013).History of nursing education in Japan. *Journal of Japan Academy of Nursing Education*,5,pp.132-138.

【書籍の場合】

著者名（西暦発行年）.書籍名.pp.引用箇所の開始ページ-終了ページ,出版地：出版社名.

[例]

山本太郎（2012）.看護基礎教育入門.23-52,大阪：看護教育出版.

Yamamoto,T. (2013).*Introduction to Nursing Basic Education*,pp.23-52,Osaka: Nursing Education Press.

【学位論文の場合】

著者名（西暦発行年）.論文名.pp.引用箇所の開始ページ終了ページ,学位論文の位置づけ.
（出版地：出版社名は不要）

[例]

山本太郎（2012）.看護基礎教育における実習指導者の役割の変化.pp.13-32,本看護学教育大学大学院看護学研究科博士論文.

【学位論文の場合】

著者名（西暦発行年）.論文名.pp.引用箇所の開始ページ終了ページ,学位論文の位置づけ
（出版地：出版社名は不要）

[例]

山本太郎（2012）.看護基礎教育における実習指導者の役割の変化.pp.13-32,本看護学教育大学大学院看護学研究科博士論文.

【翻訳書の場合】

原著者名（原著発行年）/訳者名（翻訳書発行年）.翻訳書名（版数）.（pp.引用箇所の開始ページ終了ページ数）.出版地：出版社名.

[例]

Walker,L.O.,&Avant,K.C.（2005）/中木高夫・川崎修一訳（2008）.看護における理論構築の方法.（pp.77-79）.東京：医学書院

【分担執筆の文献で著者と書籍に編者（監修者）が存在する場合】

著者名（西暦発行年）.論文名.編集者名（編）,書籍名（pp.引用箇所の開始ページ終了ページ）.出版地：出版社名.

[例]

鈴木花子（2013）.痛みの看護.山本太郎,鈴木花子（編）,臨床看護学Ⅱ（pp.123-146）.東京：教育学会出版.

Suzuki,H.(2011) A nursing approach to pain. In T. Nihon, &H. Kango Editor (Eds.). *Clinical Nursing II* (pp.123-146). Tokyo: Academy of Education Press.

【電子雑誌の場合】

a) DOIがある学術論文

著者名（出版年）.論文名.雑誌名.巻(号),pp.開始ページ終了ページ.doi : xx、xxxxxx（参照年-月-日）

Author, A. A., &Author, B. B.(Year).Title of article. *The title of Journal*, vol(no), pp.xxx-xxx. doi: xx, xxxxxx (accessed Year-Month-Day)

b) DOIのない学術論文

著者名（出版年）.論文名.雑誌名.巻(号),pp.開始ページ終了ページ.http://www.xxxxxxx（参照年-月-日）

Author, A. A., &Author, B. B.(Year).Title of article. *The title of Journal*, vol(no), pp.xxx-xxx. Retrieved from <http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)

【電子書籍の場合】

a) DOI がある書籍

著者名 (出版年) .書籍名.doi : xx, xxxxxx (参照年-月-日)

Author, A. A.,&Author,B. B. (Year). *Title of book*. doi: xx, xxxxxx (accessed Year-Month-Day)

b) DOI のない書籍

著者名 (出版年) .書籍名.http://www. xxxxxx (参照年-月-日)

Author, A. A.,&Author, B. B. (Year). *Title of book*. Retrieved from <http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)

【電子書籍の1章または一部の場合】

a) DOI がある書籍

著者名 (出版年) .章のタイトル.編集者名 (編) ,書籍名 (pp.xxx-xxx) .出版社名.doi : xx, xxxxxx (参照年-月-日)

Author, A. A.,&Author, B. B. (Year). Title of chapter. In C. Editor.,&D. Editor (Eds.), *Title of book* (pp. xxx-xxx). doi: xxxxxx (accessed Year-Month-Day)

b) DOI のない書籍

著者名 (出版年) .章のタイトル.編集者名 (編) ,書籍名 (pp.xxx-xxx) .出版社名.http://www. xxxxxx (参照年-月-日)

Author, A. A.,&Author, B. B. (Year). Title of chapter. In C. Editor.,&D. Editor (Eds.). *Title of book* (pp.xxx-xxx). Retrieved from <http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)

【Web サイトまたは Web ページの場合】

著者名 (投稿・掲載の年月日) .Web ページの題名.Web サイトの名称.http://www.xxxxxxx (参照年-月-日)

Author, A. A. (Year, Month, Day). Title of Web page. *Title of Web site*. Retrieved from <http://www.xxxxxxx> (accessed Year-Month-Day)

3. 本文中の引用方法

- 1) 本文中の引用箇所には「(著者の姓, 西暦文献発行年, 引用ページ)」を付けて表示する。書籍の場合、引用には常にページ数を記すが、ページ数を特定できないとき(本文を要約して引用する場合や文意を説明的に引用する場合など)はこの限りではない。引用が単数ページの場合は「p.xx」、複数ページにまたがる場合は「pp.xxx -xxx」とする。雑誌の場合、ページ数の表示は不要である。

[例]

- a. 田中 (2011) によると「…は…である」(p.3)。
 - b. 「…は…である」と山田は述べている (2009,pp.3-5)。
 - c. 田中は、「…は…である」と主張している (2011,p.3)。
- 2) 2名の著者による単独の文献の場合、その文献が本文に出現するたびに常に両方の著者の姓の間に「・」を付して表記する。外国語文献では、2名の姓を「&」でつなぐ。初出以降に再引用する場合も同様である。

[例]

- a. 田中・山田 (2013) によると「…は…である」(p.3)。
- b. 「…は…である」と太田、清水、山田は述べている (2011,pp.120-123)。

- c. 田中・山田は、「…は…である」と主張している (2013,p.3)。
 - d. Suzuki&Satoh (2013,p.3) は…。
- 3) 著者が 3、4、5 名の場合、文献が初出の時点ですべての著者姓を、間に「・」を付して表記する。外国語文献では、すべての著者姓を、間に「,」を付して表記し最後の著者姓の前に「&」を入れる。初出以降に再引用する場合は、最初の著者の後ろに「他」を付ける。外国語文献の場合は「et al.」を付ける。例外として、最初の著者 1 名では論文の区別がつかない場合、区別がつくまで著者姓を列記する。

[例]

- a. …であることが明らかにされている (太田・清水・田中・山田, 2011)。
 - b. …であることが明らかにされている (Johnson,Williams,Brown,Jones&Smith, 2011)。
- 4) 著者が 6 名以上の場合、初出、再引用にかかわらず、筆頭著者の姓のみに「他」(欧文の場合は「et al.」) を付す。
- 5) 複数文献を同一個所で引用した場合には、(太田・清水, 2010, pp.100-101 ; 田中, 2011, pp.3-7) というように筆頭著者のアルファベット順に表示し、文献間に「;」を付す。
- 6) 同一書籍の異なる頁を複数個所で引用する場合には、本文末の文献リストにおいては単一の文献として頁数を記載せず、それぞれの引用箇所において頁数を記載する。

[例]

- 田中 (2010, pp.23-45) によると…である。また、…であるケースも存在することが明らかにされている田中 (2010, pp.150-156)。
- 7) 翻訳本を引用した場合には、原出版年/翻訳本出版年を表示する。

[例]

Smith&Johnson (2005/2008) によると…である。